

## 自己評価報告書(最終報告)

コース等名

自然系コース(理科)

記載責任者

本田 亮

## ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ-1. 教員養成の質保証

大学の機能別分化・機能強化が求められる中、本学は教員養成大学として高度専門職業人としての教員を養成することを目標としている。教員養成の質保証のため、専攻・コースではどのような取り組みを行うか、具体的な方策を示してほしい。

## 1. 目標・計画

## 年度目標

- 教科教育では、学校現場での授業に生かせるよう教材開発、授業作りなど教育実践を視野に入れた講義を行う。
- 教科専門では、理科授業の学問的背景について学ばせ、多様な評価方法に基づき成績の厳密化を図る。
- コア科目では、実践を中心に、学問的背景、教育方法を結合させながら演習を行う。
- 実地教育では、実習授業を可能な限り観察し、助言、指導をする。
- フレンドシップ事業を充実させ、学生が理科の実験を通して、児童・生徒と触れ合う機会を増やし、教員志望のモチベーションを高める。

## 2. 点検・評価

1. 学部の各学年の授業では、教科の専門性を重視したもの、学校現場で直接使うことを重視したものがバランスよく行われた。また、1つの授業科目においても、その双方を考慮した内容構成がなされた。このことは当該年度だけでなく、例年行われていることである。
2. 授業評価は授業内容に即して行われており、その方法は一律ではなく授業依存性が高いものであった。
3. コア科目においては、学生が授業を構成しそれを実行できることを目的に行われた。そこでは科学活動と学校教育の関係を重視する内容が行われ、フレンドシップ事業や実地教育に結びつくものであった。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

## 年度目標

- <教育支援>
- 院生に対しては、各自の希望を踏まえた研究課題を与え、各自が自主的に研究に取り組める環境を整備する。
  - 学生・院生が研究や取り組みの成果を積極的に公表できるように支援する。
- <学生生活支援>
- 少人数制教育の特徴を生かしたperson to personの教育を行い、卒業研究についても学生の自主性を重んじる。
  - 学生が就職支援室を積極的に利用し、また支援室の行事に積極的に参加するよう指導する。

## 2. 点検・評価

- <教育支援>
1. 学生の研究室配属の際は、各教員と学生との間で研究テーマを十分議論が行われてた。
  2. 学生の研究成果の発表として、学会発表、論文発表を行うよう指導しており、実際にこのような場での発表も行われた。
  3. 学生の学内および学外研究活動に際しては、教員にたいするものと同様にコース等経費等の研究費が使われた。
- <学生生活支援>
1. 理科の授業においては、教員からの一方通行にならないように、質問の機会を設ける、レポート提出に確認等、各受講生の状況が把握できるようにした。
  2. 卒業研究、課題研究の遂行において、テーマ選び、立案、実験、論文作成、発表等へ学生の自主的活動を促すとともに、折りを見て適切なアドバイスを与えた。

## Ⅱ－2. 研究

### 1. 目標・計画

#### 年度目標

- 教員の研究方針については、各人に任されている。
- 理科教室内はもとより、他コースや他大学の教員等との連携による共同研究を推進する。
- 修士学生の研究課題については、本人の意志を尊重し、教員と議論の後、研究テーマを決める。研究の進展上、必要あれば指導教員の変更を含め、迅速に対応する。

### 2. 点検・評価

1. 各教員がそれぞれの研究方針に基づき研究を行い、国内外の学会での発表及び論文発表をした。
2. 研究において、その内容に応じて、個人研究ばかりでなく学内、学外および他国の研究者と共同研究を実施した。
3. 学生特に修士課程の学生に対して、1人の研究者として対等な議論の機会を含めた研究指導を行った。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

#### 年度目標

- 大学運営に対しては、積極的に協力する。しかし、大学の方針に盲従するわけではなく、是々非々に対応する。
- 教員の研究環境の改善に努力したい。

### 2. 点検・評価

1. コース内の教員は各種委員会、教育部会で積極的な発言を行って、論点の明確化に努めた。
2. 学内経費、外部資金の獲得などによって、研究環境の改善を図るとともに、コース内で共同研究の可能性も考慮して、研究を進めた。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

#### 年度目標

- 附属学校とは、従来通り連携を深めていく。
- 教員10年次研修や教育支援アドバイザーでの交流等、教員との連携を深め、大学院進学への勧誘も行う。
- SSHや地域連携講座で、科学の普及に努める。
- JICA理数科教育研修にとどまらず、海外への調査・学術協力をを行い、国際交流に努める。
- 徳島県立博物館やあすたむらんど徳島との連携を通じて、生涯教育への貢献に努める。

### 2. 点検・評価

1. 附属学校園とは教科内容を重視した連携をしており、研究授業においては、より専門に近い教員からのアドバイスが得られるように努めた。
2. 各種教員研修を担うとともに、教育支援アドバイザー、SSH、フレンドシップ事業、各種施設等を通して、地域児童・生徒への自然科学への啓発活動を積極的に行った。
3. JICA研修においては、国内支援、現地支援などに対し、内容に応じて専門の教員が担当した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

機会がある毎に、コースおよび各教員より大学運営に関して質問、意見が出され、問題点の洗い出しの一役を担った。